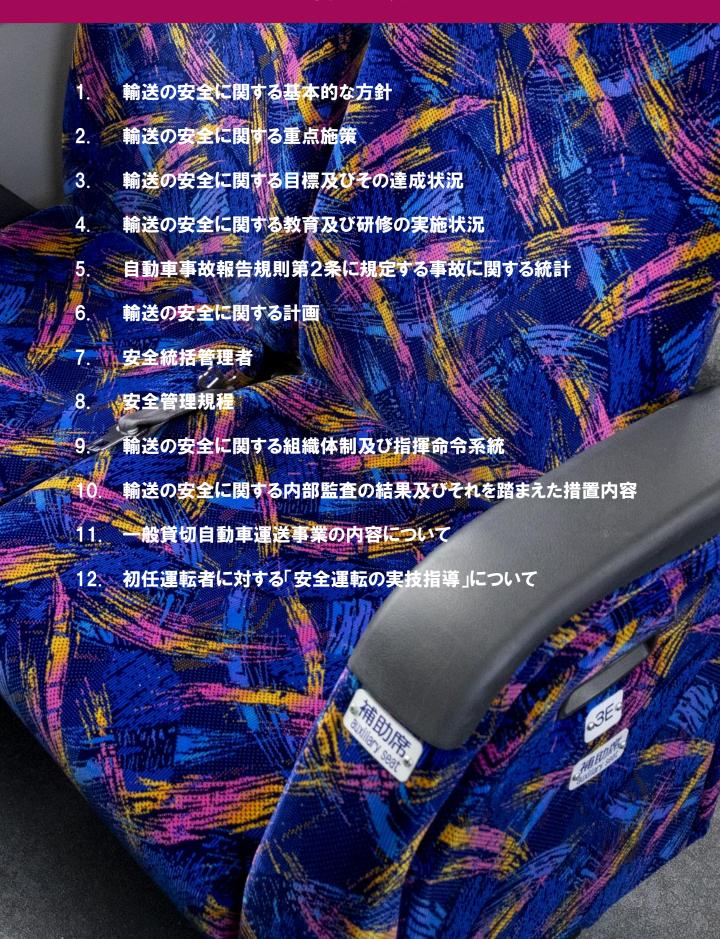


2023年度

安全報告書

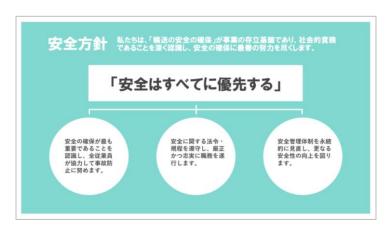


目 次



1. 輸送の安全に関する基本的な方針

経営トップ及び安全統括管理者は、輸送の安全の確保が事業の存立基盤であり、 社会的責務であることを深く認識し、社内において主導的な役割を果たしてまいります。 また安全の確保に資する現場の声を傾聴するとともに、企業理念、安全方針の浸透を 図り、輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を全従業員に徹底してまいります。





2. 輸送の安全に関する重点施策

- ①輸送の安全が最も重要であるという意識を徹底し、安全管理規程に定められた 事項及び関係法令を遵守します。
- ②輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うよう努めます。
- ③輸送の安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じます。
- ④輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、 共有します。
- ⑤輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、これを的確 に実施します。
- ⑥グループ企業及び業務委託事業者と密接に協力し、一丸となって輸送の安全性向上に努めます。



3. 輸送の安全に関する目標及びその達成状況

2023年度目標及び結果

★ 2023安全スローガン ★			
研	確認の徹底		
運転規範	速 度 の 抑 制 車間距離の確保		
空 港営業所重点項目	構内徐行の励行!		
空港南営業所重点項目	右左折時安全確認の徹底! 横断歩道での一旦停止の励行!		
大 阪営業所重点項目	2段階バックの励行!		
中 津営業所重点項目	先ず止まれ!3秒停車で周囲の安全確認の励行!		
★ CSスローガン	"お客様"に対して、丁寧な言葉遣いをしよう!		

重点目標	目標	結果
重大事故発生件数	0	0
人身事故発生件数	0	0
有責事故発生件数	30	32
酒気帯び出勤件数	0	2
営業所ごとの連続無事故日数	200日	未達
お褒め件数	27	31
苦情件数	49	52

(百万円)

	予算	結果
輸送の安全に関する投資額	857	408
①車両更新等に関する投資	805	367
②運輸従事員の教育指導実施に伴う投資	38	29
③安全管理体制強化に伴う投資	14	12

4. 輸送の安全に関する教育及び研修の実施状況

2023年度

- (1)経営トップ、安全統括管理者の職場巡視(9回)
- (2)運輸安全推進委員会(4回)
- (3)運輸部会議の開催(13回)
- (4)経営管理部門管理職による早朝・夜間点呼立会い(71回)
- (5)営業所事故防止対策会議等の開催(24回)
- (6)営業所責任者教育(責任者研修・運行管理者一般講習等)(延べ44名)
- (7)警察による安全運転講習会の開催(12月)
- (8)運転士教習等の実施(延べ112名)
- (9)外部機関研修(クレフィール湖東等)の実施(11名)
- (10)ナスバネット等による適性診断の実施(95名)
- (11)無事故無違反チャレンジコンテストへの参加(351名)
- (12)睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の実施(29名)
- (13)脳ドック検査の実施(23名)
- (14)代替車等の導入(7両)
- (15)空港リムジン車両へのトランクルーム側面LEDランプ設置(86両)
- (16)無事故運転士表彰の実施及び社長等と受賞者代表による座談会の開催 (2月)



空港リムジン車両へのトランクルーム側面LEDランプ設置写真

5. 自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計

2023年度	
第2条第3号に関する報告 (死者又は重傷者を生じた事故)	O件
同条第9号に関する報告(運転士の疾病)	O件
同条第11号に関する報告(車両故障)	2件



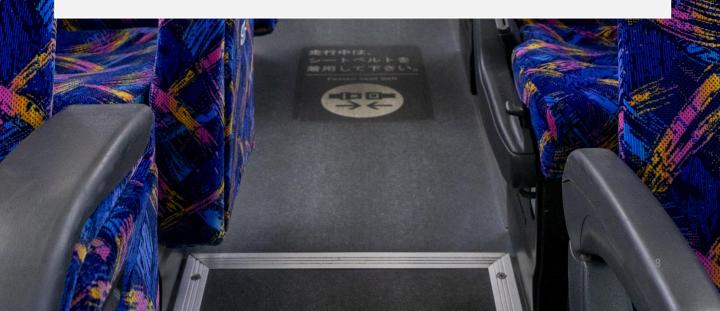
2024安全スローガン

確認の徹底

~静止物事故撲滅~

2024CSスローガン

思いやりのある"温かい接客"をしよう!



2024年度の目標と計画

重点目標	目標
重大事故発生件数	0
人身事故発生件数	0
有責事故発生件数	3 割 減 (対前年比)
重点削減事故件数	静止物事故 3 割減 (対前年比)
酒気帯び出勤件数	0
お褒め件数	1 割 増 (対前年比)
苦情 件 数	1 割 減 (対前年比)

(百万円)

	予算
輸送の安全に関する投資額	966
①車両更新等に関する投資	914
②運輸従事員の教育指導実施に伴う投資	38
③安全管理体制強化に伴う投資	14

(1) 安全最優先・法令遵守の職場風土の醸成

安全方針及び安全スローガンの浸透と実践について、経営トップ・安全統括管理者による 営業所巡視等の諸施策により検証するとともに、安全最優先・法令遵守の職場風土の醸成 に努めます。

早朝点呼立会



意見交換会



サービスエリアでの立哨



営業所巡視



安全統括管理者訓話



主要バスターミナル巡視



(2) 運転士教育及び研修(運転士及び管理者に対する教育)

オブジェ・アイマークレコーダー等の教育機材や外部の教育施設を有効に活用した参加体験型の安全運転教育に努めます。また、視機能検査器具を活用し、動体・夜間・深視力の変化を適切に指導します。

安全に関する年度目標等の浸透を図るため、継続的な乗務員研修等を活用し、安全レベルの向上を図ります。

- 〇新任運転士に対しては入社後専任教習担当による40日間の教育を実施
- 〇関係法令等に関する教育、CS講習の実施
- 〇配属営業所での主任・指導運転士による側乗研修の実施

オブジェ・アイマーク教習



高齢運転者教習



現業部門の管理者に対しては、社内外の講師による教育を実施し、関係法令や現場対応力の習得と安全意識の向上に努めます。

責任者教習



バック教習



(3) 日常監督指導の強化

経営管理部門による点呼立会いをはじめ、現場管理者による重点危険箇所での立ち番の実施 等による安全意識啓発の他、私用携帯電話の保管ロッカーへの預け入れ等により厳正な執務 に努めます。

点呼立会い



安全エリアを活用した安全啓発



私用携帯電話保管ロッカー



営業所出入口立ち番



主要バスターミナルでの啓発



携帯電話持出許可ケース



(4)情報の伝達及び共有

WEB会議の活用により情報連携の迅速化を図るとともに、ヒヤリ・ハット情報や危険箇所等の動画・静止画を活用したタッチパネル式情報版及び点呼モニターを設置し、ドライブレコーダー映像を活用した点呼等、情報の伝達と理解促進を図ります。また、安全統括管理者と現業従業員とのコミュニケーションツールとして安全目安箱を設け、輸送の安全に関する情報の収集の促進を図ります。

タッチパネル式情報版



安全目安箱



ヒヤリ・ハットマップ



整備部門からの情報連携



ヒヤリ・ハット情報の共有



事故発生連絡による事例共有



(5) 安全意識及びモチベーションの向上

連続無事故営業所表彰や無事故運転士表彰の実施により安全に対する意識の向上を図るとともに、運転士との懇談会で経営トップと運転士のコミュニケーションを通して、安全意識の共有を図ります。

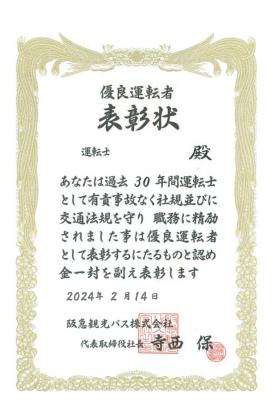
無事故運転士表彰式



経営トップと無事故運転士の座談会







(6) 安全に対する車両設備等の充実

ドライバー異常時対応システム(EDSS)等を搭載した先進安全自動車の導入を進め、運転 士が急病等で異常が発生した際の安全性向上に努めるとともに、ヘッドライトのLED等への 変更他、左サイドビューカメラの導入等により安全確認装備の充実を図ります。また、ドライ ブレコーダー(6カメラ)を導入し、より詳細な事故原因の把握、原因究明等に取り組みます。

サイドビューカメラ



LEDヘッドライト



EDSS作動ボタン



衝突被害軽減ブレーキ



EDSS作動ボタン



EDSS案内文



ストップランプが点蓋 > ハザードランプが点蓋 ドライバー異常時対応システム EDSS (Emergency Driving Stop System)作動イメージ 本制動により車両を停止し 運転席スイッチを押す ブレーキ保持+インターロックによりアクセル器込み防止 運転席 ドライバーに 操作時 異常が発生 1 緩制動による減速を行い3.2秒後、本制動にて車両を停止し 客席スイッチを押す 客席 プレーキ保持+インターロックによりアクセル踏込み防止 ドライバーに 操作時 異常が発生 fui. 9 . . . 0

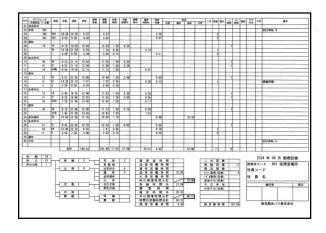
※スイッチを誤って操作した場合は運転席の解除スイッチによるキャンセルが可能

(7) DX(デジタルトランスフォーメーション)による記録管理の適正化及び業務の効率化 ○乗務記録の自動出力化による運転士の労働時間の適正管理

乗務記録の自動出力

| The Search | T 乗務記録 出動場所 空槽営業所 運動場所 京都車庫 般乗合 乗務系統 路線 路線 路線 路線 路線 路線 98 89 98.88 76 AR 路線 95.69 路線 28.88 路線 * * * 車輛 道路 運行 非 米 非 非 車輛 遊路 運行 良 車輛 道路 運行 良 乗務合計 時間 4:34 距離 191.2 休憩合計 時間 2:07 仮联合計 時間 0:08 事故、著しい運行の遅延、その他異常な状態とその観要・原因 備号

システムによる勤怠管理



(8) 安全管理体制の強化(運転士の健康管理の徹底)

社員の健康管理強化のため、法定健康診断や労災二次健康診断に加え、SAS検査や脳ドック 検査等を導入し、健康な状態で乗務する体制整備を図り、健康起因事故防止に努めます。

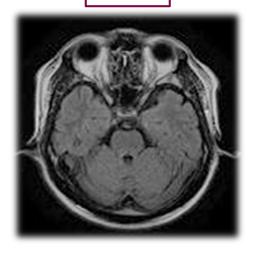
MRI検査







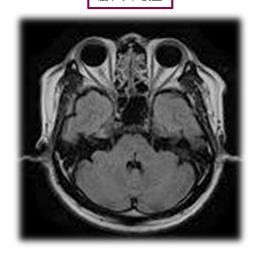
脳ドック検査



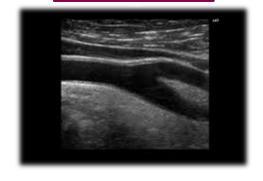
労災二次検診 (心エコー)



脳ドック検査



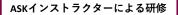
労災二次検診 (頸部エコー)



(9) 酒気帯び出勤の撲滅

飲酒運転防止インストラクター資格を取得した現場管理者が運転士に対し、飲酒が運転に与える影響を教育し、酒気帯び出勤撲滅の風土作りに取り組むとともに、運行管理者が乗務前後の点呼でアルコール検知を確実に実施し、事業用自動車の安全運行に万全を期しています。また、本社管理部門による点呼立会いの実施や記録式アルコール検知器により確実な点呼執行を徹底します。加えて、家庭での飲酒量抑制にも取り組むために「ご家族への手紙」を作成し、従業員の家族に対しての啓発を実施するとともにアンケートによる理解度の把握に努めます。

退勤点呼での啓発



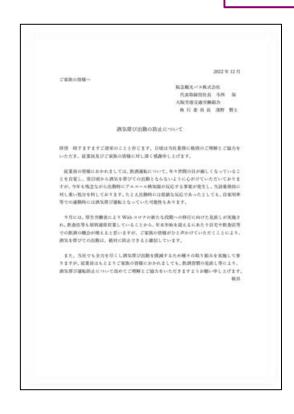
営業所での啓発







「ご家族への手紙」





(10)無事故・無違反チャレンジコンテストへの参加

全社一丸での安全意識向上を目的として、「無事故・無違反チャレンジコンテスト」に参加しています。乗務員のみならず、事務職員も参加することにより、業務外での車両の運転はもちろん、「交通事業者で勤務することの自覚」を持つことにより、安全意識の向上に日々取り組んでいます。



(11)接遇・サービスの向上

安全とCSは表裏一体と考え、お客様から頂くご意見に対し再発防止に取り組むとともに、 CSに関するスローガンを掲げ、接遇・サービスの向上を図ります。また、継続的な乗務員 研修では実例を用いた社員教育に取り組みます。

2024CSスローガン

思いやりのある"温かい接客"をしよう!

「安全の心がけ」によるCS教育



外部講師によるCS講習



DVDを活用したCS教習





(12) 重大な事故、自然災害への対応

重大事故や自然災害等の事態に備えて、対応ルールを整備するとともに、緊急事態対応訓練 を実施し、緊急事態発生時の体制強化に取り組みます。

バス車両を用いた緊急事態対応訓練



リアルタイムのドライブレコーダー車内映像



発電機を使用した自然災害訓練



緊急事態発生時のバス車外LED表示



対策本部における訓練風景



自然災害(津波等)を想定した施設設計



7. 安全統括管理者

常務取締役 野崎 敏

8. 安全管理規程

別紙「安全管理規程」参照

9. 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統

別紙「輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統」参照

別紙「事故、災害等に関する報告連絡体制」参照

10. 輸送の安全に関する内部監査結果及びそれを踏まえた措置内容

1監査目的

安全管理規程第十条五項及び第十五条に定める輸送の安全に関する監査を実施し、 安全管理体制の「適合性」と「有効性」を検証

②実施期間

2024年1月10日~3月31日

③対 象

経営トップ 本社管理部門 運行部門 車両整備管理部門

4)実施内容

経営トップの責務、安全管理体制の運用状況、安全に関する目標設定及び達成状況、 教育及び研修の実施状況に対する是正、予防、改善措置について適正に実施されて いるかを確認

5 監査結果

特段の指摘事項はなく、おおむね適正であることを確認さらなる管理機能の強化が求められる本社部門に対して要望事項の提案

内部監査の様子



11. 一般貸切自動車運送事業の内容について(2024年3月31日現在)

①運転者に係る情報	(名)
運転者/正規	21
運転者/正規以外	14
健康保険加入者数	35
厚生年金加入者数	35
労災保険加入者数	35
雇用保険加入者数	35
運転者/平均勤続年数	12.4年

②運行管理者に係る情報	(名)
運行管理者数	16
運行管理補助者数	6
他業務と兼務する運行管理者数	7
他業務と兼務する運行管理補助者数	6

③整備管理者に係る情報	(名)
整備管理者数	2
整備管理補助者数	10
他業務と兼務する整備管理者数	1
他業務と兼務する整備管理補助者数	10

11. 一般貸切自動車運送事業の内容について(2024年3月31日現在)

	133 0	
4事	第業用車両に係る情報	
大	、型車両数	34
最	最新車齢	Oヵ月
最	最古車齢	17年1カ月
7	^工 均車齢	10年10カ月
۴·	ライブレコーダー搭載車両数	34
テ	デジタコ搭載車両数	34
A\$	SV搭載車両数	34
主	Eな運行態様	貸切
#	□型車両数	1
最	最新車齢	5年0ヵ月
最	是古車齢	5年0ヵ月
	^至 均車齢	5年0ヵ月
K.	ライブレコーダー搭載車両数	1
テ	ジタコ搭載車両数	1
AS	SV搭載車両数	1
主	Eな運行態様	貸切
小	\型車両数	1
最	最新車齢	13年5ヵ月
最	是古車齢	13年5ヵ月
	^王 均車齢	13年5ヵ月
۲.	ライブレコーダー搭載車両数	1
テ	ジタコ搭載車両数	1
A	SV搭載車両数	1
Ì	とな運行態様	貸切
任	E意保険/対人保険金額	無制限
任	£意保険/対物保険金額	無制限

12. 初任運転者に対する「安全運転の実技指導」について

(対象者)

- ・貸切バス運転者(40代)
- ・大型車運転経験 11年(主に貸切バス)

●実技教育内容: 20時間以上

実施日:2024年4月2日	
車種	大型車
運転(ハンドル) 時 間	4時間13分
走行距離	285. 7km
指導目的	車庫内、一般道走行訓練、高速道路走行訓練 (安全な速度・適切な車間距離等)
実 施 コース	構内走行訓練 中津営業所〜新御堂筋〜名神高速〜高槻JCT〜新名神 〜三木JCT〜龍野西SA〜播磨道〜一般道〜中国道 〜新名神〜高槻JCT〜名神高速〜新御堂筋〜中津営業所

実施日:2024年4月3日	
車種	大型車
運転(ハンドル) 時 間	7時間02分
走行距離	411.7km
指導目的	一般道走行訓練、高速道路走行訓練 (安全な追い越しや進路変更等)
実 施 コース	中津営業所〜新御堂筋〜名神高速〜高槻JCT〜新名神〜神戸JCT〜中国道吉川JCT〜舞鶴若狭道〜西紀SA〜春日IC〜北近畿豊岡道〜遠坂トンネル〜八鹿氷ノ山IC〜国道9号線〜湯村温泉〜国道178号線〜踏切〜三角交差点〜県道167号線〜浜坂駅前ロータリー〜北近畿豊岡道〜遠坂トンネル〜舞鶴若狭道〜吉川JCT〜中国道〜池田IC新御堂筋〜中津営業所

実施日:2024年4月4日	
車種	大型車
運転(ハンドル) 時 間	7時間05分
走行距離	395. 8km
指導目的	狭隘な一般道路(危険箇所)での運転操作確認、高速道路走行訓練(全般確認)
実施コース	中津営業所〜新御堂筋〜名神高速〜高槻JCT〜新名神 〜神戸JCT〜中国道吉川JCT〜舞鶴若狭道〜西紀SA〜春日IC 〜北近畿豊岡道〜遠坂トンネル〜和田山IC〜一般道〜一本柳交差点 〜城崎温泉〜城崎マリンワールド〜一般道〜和田山IC〜北近畿豊岡道 遠坂トンネル〜舞鶴若狭道〜吉川JCT〜中国道〜池田IC〜新御堂筋〜中津営業所

12. 初任運転者に対する「安全運転の実技指導」について

実施日:2024年4月5日	
車種	大型車
運転(ハンドル) 時 間	2時間42分
走行距離	137. 7km
指導目的	阪神高速道路での適切な合流と空港内バス発着場所確認 全般的な見極め
実施コース	中津営業所〜一般道〜梅田入口〜阪神高速〜りんくうJCT〜関西国際空港 〜阪神高速〜大阪国際空港〜阪神高速〜一般道〜中津営業所

総運転時間:21時間02分総走行距離:1230.9km

●指導監督指針に定められた教育の実施

1	事業用自動車の安全な運行に関する基本的事項	
2	事業用自動車の構造上の特性と日常点検方法	
3	運行の安全及び旅客の安全を確保するため留意すべき事項	教育時間
4	危険の予測及び回避	10時間 以上
5	安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法	
6	ドライブレコーダーの記録を利用した運転特性の把握と是正	

●教育実施者: 専任教育担当者

「安全はすべてに優先する」